

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

避難所生活体験活動

山口県

【事業のポイント】

- 南海トラフ巨大地震による津波発生を想定した避難訓練を、地域住民と合同で様々なケースで実施することにより、的確に状況を判断し、周りの人と協力し安全に行動する能力を育む。
- 体育館での避難所生活を体験しながら、地震・津波被害についての学習や救急救命訓練等に取り組み、防災意識の高揚を図る。
- 大規模災害発生時における、学校・保護者・地域・防災部局等の連携体制の構築を図る。



1. 企画

(1) 事業実施の背景

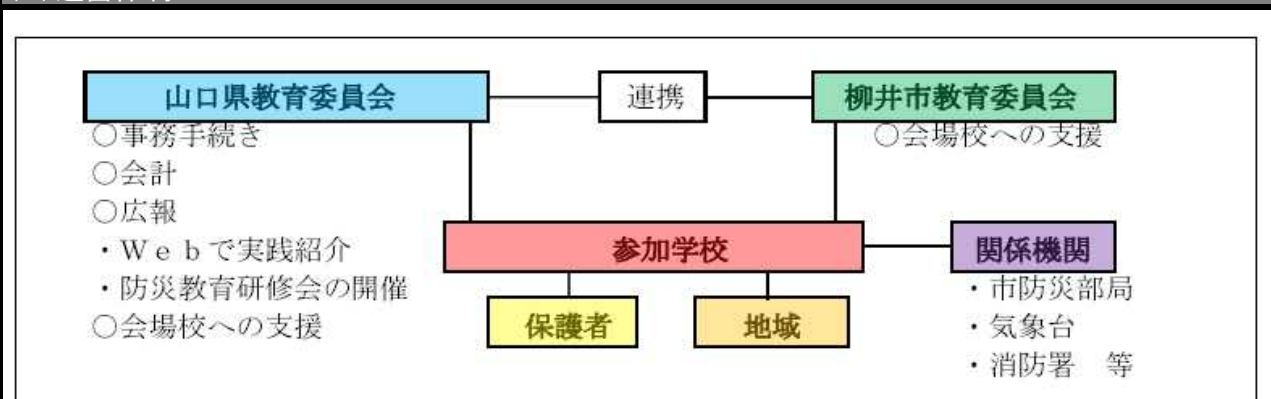
東日本大震災の発生を受けて、山口県においても地震・津波災害に対する対応が喫緊の課題となっている。本県ではこれまで、県北部や安芸灘を震源とする地震が発生しており、今後、南海トラフや大竹断層・菊川断層・大原湖断層郡等の活断層によるM6～7規模の地震の発生が想定されている。このため、大規模災害発生時に避難所となり得る学校施設等で、学校・地域・防災部局等が連携した避難訓練や避難所生活を実践し、児童生徒の防災対応能力の育成と学校・保護者・地域の防災協力体制を構築する必要がある。

(2) ねらい

地震・津波発生時における避難訓練と発生後の避難所生活を体験し、災害時における的確な判断力や行動力を育成するとともに、地域住民と協力して災害を乗り越えようとする強い心や思いやりの心、集団生活におけるリーダーとしての資質を養う。

2. 事業概要

(1) 運営体制



(2) 開催実績

月 日	内 容
5月14日	避難所生活体験活動第1回企画運営委員会(柳井市役所)
6月24日	避難所生活体験活動第2回企画運営委員会(柳井市役所)
7月10日	避難所生活体験活動第3回企画運営委員会(柳井市立柳井南小学校)
8月3日～4日	避難所生活体験活動(柳井市立柳井南小学校)
11月12日	山口県防災教育研修会(県セミナーパーク)

3. 防災キャンプ実施概要

活動名: 避難所生活体験活動

1 実施日時: 平成25年8月3日(土)・4日(日)

2 実施場所: 柳井市立柳井南小学校

3 参加者: 柳井南小学校児童(4・5・6年生)12人、保護者4人、教職員10人
 柳井南中学校生徒(1年生)18人、保護者4人、教職員5人
 伊保庄地区住民20人、柳井市教育委員会5人、柳井市危機管理室1人
 柳井市スクールガードリーダー2人、山口県教育委員会2人

4 プログラム

【1日目】 8月3日 (土)

13:00	13:30	15:00	17:00	19:00	20:00	21:30	
開 会 行 事	避 難 訓 練	【研修Ⅰ】 ○地震・津波の発生メカニズムを知る ○減災方法や被災後の対応を学ぶ	夕食準備 (備蓄食) 【研修Ⅱ】 緊急避難用品を学ぶ	夕 食	班活動 ○避難所生活の決まり等を学ぶ ○班目標の決定	寝 床 作 り	就 寝

【2日目】 8月4日 (日)

6:00	6:30	7:30	8:30	9:00	10:00	10:50	11:00	
起 床	避 難 訓 練	【研修Ⅱ】 緊急避難用品を学ぶ 朝食準備 (備蓄食)	朝 食	会 場 片 付 け	【研修Ⅲ】 ○心肺蘇生法訓練 ○AED使用訓練	振 り 返 り	閉 会 行 事	保 護 者 へ の 引 き 渡 し 訓 練

5 活動の様子

1日目

《避難訓練》

大津波警報の放送を聞き、教頭の指示の下、参加者全員が素早くグラウンドに避難し、人員確認をしました。その後、津波の襲来を想定し、二次避難場所(星の見える丘工房)に避難を開始しました。

真夏の太陽が照りつける中、参加者は学校から400m離れた二次避難場所へ迅速に移動し、10分で避難を完了しました。

避難訓練終了後、山口県学校防災アドバイザーの幸坂美彦さんから、訓練の講評及び日頃からの備えについて講話を聞きました。

ポイント

- ①過去の災害を知る。
- ②日頃から避難場所の確認をする。
- ③過去の災害を、次の世代に伝える。

※津波で避難した場合、正確な情報を入手しながら最低2時間は避難所にとどまること。

《研修Ⅰ》下関地方気象台による地震・津波災害等についての講義

地震・津波の発生メカニズムや、実験を通して津波の破壊力や地面の液状化について学びました。また、日常生活における減災への取組や被災後の対応についても学ぶことができました。

《夕食準備》柳井市危機管理室の指導

備蓄食(アルファ化米)を使い、夕食を作りました。50人分の備蓄食が入った箱を開け、中身を取り出し、耐熱袋に具材を入れ熱湯を注ぎ、30分ほどでドライカレーができました。ドライカレーと支給された水だけの夕食は、家庭での夕食と違いとても質素で量も少ないものでした。しかし、簡単においしい食事が作れたことは、本当に驚きでした。



《研修Ⅱ》緊急避難用品の学習

緊急避難用品の説明を受け、実際に品物を手に取り確認しました。また、水が使えないときのための排便袋と凝固剤、人目を避けるためのトイレ用テントを用いての緊急用簡易トイレの疑似体験もしました。

緊急避難用品

缶入乾パン 5年保存水 ロープ ローソク タオル 給水バッグ
防寒保温シート 合羽 軍手 ブルーシート LEDライト 救急セット



《班活動》

避難所生活で困ることについての意見を出し合い、他人に援助してもらわなければならないことと、自分たち避難者が解決しなければならないことを話し合いました。その中で、避難所生活に必要な約束(規則)を考え理解しました。また、各班の避難所生活の目標を決め、段ボールに書き込みました。



《寝床作り》

段ボールを使った間仕切りの作り方を学び、自分たちの寝床を作りました。各班とも全員で協力し、ユニークな寝床を作りました。床に段ボールを2枚程度敷くだけで、寝心地は格段とよくなりました。

しかし、あまりにも間仕切りを高くしっかり作ってしまい、暑さで真夜中に目が覚めた人もいました。



2日目

《ブラインド方式の避難訓練》

朝6時30分に、予告なしの避難訓練を実施しました。子どもたちは、慌てることなくグラウンドに集合し、人員確認と報告を行いました。その後、二次避難場所に整然と移動できました。前日の訓練が、しっかり身に付いていました。



《朝食準備》柳井市危機管理室の指導

前日の夕食同様、備蓄食を使い、朝食を作りました。

メニュー わかめご飯 乾パン 水



《研修Ⅲ》柳井消防署による心肺蘇生法及びAED使用についての講習

消防署員5名から、心肺蘇生法とAED使用方法を学びました。機敏な動作と、的確・丁寧な説明で、とても分かりやすく楽しく学習できました。心肺蘇生法は見た目以上に大変で、一人では1~2分継続するのが精一杯に思えました。AEDは、音声ガイドにより簡単に使用できました。



《活動の振り返り》

2日間の活動を振り返ってみました。

- ・もし、このようなことがあったら、知らない人でも協力したいと思います。(小4)
- ・避難所生活は、こんなに大変だと分かりました。(小5)
- ・津波が来たときは、自分で自分の身を守るようにしたいと思います。(小5)
- ・いつ災害が起きるか分からないので、準備をしようと思いました。(小6)
- ・これまで関心のなかった災害に興味をもち、災害に対する備えの仕方を学ぶことができました。(中1)
- ・避難所生活になった時は、自分よりもっと弱者がいると思うので、その人を優先したいと思いました。(中1)



《保護者への引き渡し訓練》

最後に、保護者への引き渡し訓練を行いました。どの子どもたちにも、保護者の顔を見ると安堵の表情が見られました。引き渡し開始から30分後に、最後の子どもの引き渡しが完了しました。



4. 普及啓発の実施概要

活動名:山口県防災教育研修会

【趣旨】東日本大震災の発生を受け、本県においても学校防災の一層の充実が求められており、避難所生活体験活動等、先進的な取組事例を県内全域に周知を図ることにより、防災教育の充実に資する。

1 日 時:平成25年11月12日(火)

2 場 所:山口県セミナーパーク

3 参加人数:175人

4 参加対象:県内幼・小・中・高の教職員、教育委員会指導主事

5 日 程

10:00 開会行事

10:10 所管説明

10:20 防災アドバイザーによる学校巡回報告

11:00 下関地方気象台による特別警報及び7月28日の記録的な大雨の説明

11:30 避難所生活体験活動実践発表

13:00 山口大学農学部の中本晴彦教授による講演「山口県の気象災害と防災教育について」

14:50 分科会(幼・小学校、中学校、高等学校に分かれ防災教育について協議)

16:00 開会行事

○柳井市で実施した避難所生活体験活動の様子をレポートし、本課のWebページに掲載。

○山口県教育委員会広報誌「NEWS LETTER」で、避難所生活体験活動の実施の様子や防災教育研修会での成果発表の様子を紹介。

5. 成果と課題

(1) 事業成果

〈避難所生活体験活動〉

○ 大規模災害時の避難や避難所運営には地域との連携が不可欠であり、避難所に指定されている学校においては平常時より関係機関(消防、警察、自治会、市町防災部局等)との情報共有が重要であることが確認できた。

○ 一日目の避難訓練については、地域の過去の災害や国の津波被害想定等を踏まえ、警察、地域住民、防災部局等と合同で実施し、防災アドバイザーにより課題を指導・助言してもらった。それを受け、二日目の早朝に行った抜き打ちの避難訓練は、前日の訓練が生かされた迅速な避難行動ができた。

○ 段ボールの寝床を使った体育館での宿泊体験や備蓄食の体験、心肺蘇生訓練、AED訓練、防災用品についての学習等により、避難所生活や防災に関する知識・技能の学習及び意識の高揚を図ることができた。

〔児童生徒アンケート結果〕

とてもあてはまる:5 ややあてはまる:4 どちらともいえない:3

あまりあてはまらない:2 まったくあてはまらない:1

No	項 目	平均値
1	避難するときに大切なことが分かった。	4.6
2	地震や津波が起こるしくみが分かった。	4.5
3	避難所生活で必要なことが分かった。	4.5
4	心肺蘇生法(しんばいそせいほう)の仕方が分かった。	4.8
5	みんなと協力することができた。	4.3
6	思いやりの心をもって過ごすことができた。	4.1
7	リーダーとして行動することができた。	3.3
8	災害に備えて準備をしておこうと思う。	4.0
9	実際に災害が起こったとき、正しく行動できると思う。	4.2
10	今回の体験活動は役に立った。	4.3

〈防災教育研修会〉

○ 防災アドバイザーによる防災管理体制や避難訓練の課題の報告、先進的な防災教育の実践発表、本県で発生が想定される大規模災害(台風高潮・土砂災害)についての専門家による講話等、様々な視点から防災教育の研修ができた。

(2) 事業運営上の課題・留意点

〈避難所生活体験活動〉

○ 学校は避難所の指定(運営)に関しては認識が低く、今後は市町の防災担当部局や地域の防災関係機関等と連携した取組が必要である。

○ 学校の危機管理は主に管理職が担当という認識であるが、危機対応は全教職員(組織)で対応することが必要であり、全教職員への危機管理についての意識付けや災害に対する危機対応能力の更なる向上が重要である。

○ 地震が比較的少ない本県においても、将来の生活において地震・津波災害から自らの命を守ることができるよう、様々な想定をした保護者・地域・防災部局等と連携した実践的な訓練を実施することが重要である。

〈防災教育研修会〉

○ 防災教育は防災担当者だけでなく、全教職員で取り組んでいく必要があり、今後、より多くの教職員が研修会に参加し、自然災害に対する知識の深化、危機意識の高揚や災害発生時における危機対応力の向上等を図る必要がある。

(3) その他

平成26年度も防災キャンプの実施を予定している。来年度は、豪雨土砂災害や台風高潮災害時における避難訓練や避難所生活体験活動も実施し、防災キャンプのモデルプログラムを作成し、県内に啓発普及したい。

6. 団体プロフィール

山口県教育委員会 学校安全・体育課
TEL:083-933-4673

柳井市教育委員会 学校教育課
TEL:0820-22-2111

